

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)－文字学に関する既存術語の再検討」

2022 年度第 1 回研究会

日時：令和 4 年 7 月 30 日（土曜日）午後 13 時 00 分より午後 17 時 00 分

日時：令和 4 年 7 月 31 日（日曜日）午後 10 時 00 分より午後 15 時 00 分

場所：Zoom

7 月 30 日

1) 全員

文字研究の術語に関する討議（1）

「示準文字」あるいは「指標文字」という用語と概念について笹原宏之氏から問題定義があり、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

2) 荒川慎太郎（AA 研所員）

「西夏文字の「異音同字」再考」

(Re-analysis on the pair of Tangut scripts whose shapes are same but syllables are different^{*)})

西夏文字に「異音同字」（同じ字形で異なる音を持つ）は存在するか再検討した。先行研究・現代の字典類ではそれらしい組が指摘されているものの、西夏時代の資料を子細に見ると、実は一部の筆画が異なることが確認できる。最終的に報告者は、西夏人自身も認識していた一例を除いて、西夏文字に完全な「異音同字」はほぼ存在しないことを述べた。

7 月 31 日

1) 落合淳思（AA 研共同研究員，立命館大学）

「漢字の字素」

(Grapheme in Kanji)

漢字の字素（文字の構成要素）について、分類と検討をおこなった。個々の漢字には字形・字音（発音）・字義（意味）の三つの要素があるが、字素についても、それぞれの要素ごとに分類が可能であることを述べ、また具体例を提示した。漢字は時代的な構造変化が起こるため、字素については、どのような基準で分類しても、通時的には「ずれ」が生じるという特徴がある。そのほか、文字体系としての漢字の特徴についても要約・検討した。

2) 全員

文字研究の術語に関する討議（2）

「示準文字」あるいは「指標文字」という用語と概念について、30 日に参加していなかったメンバーから、各文字の見地からコメントを出してもらい、検討を継続した。

今回は本郷サテライトで対面形式で実施予定だったものの、諸般の事情により、完全な Zoom 形式となった。直前の変更で困難もあったが、当初参加予定の無かった共同研究員が短時間とはいえ参加できたなどのメリットもあった。